

ふるさと港北ふれあいまつり

令和元年6月1日(土)、新横浜駅前公園にて「港北区制80周年記念 ふるさと港北ふれあいまつり」が開催されました。例年は秋に開催していましたが今年は6月の開催で、さらに区政80周年記念の式典も執り行われました。

青少年指導員は「わくわく抽選会」の担当と、会場内のブースにて「スマートボール」を楽しんでもらうコーナーを出店しました。

わくわくステージで人気キャラクターのショーを楽しんだ子ども連れの皆さんに、懐かしいゲームで楽しく過ごしてもらえました。港北区が「ふるさと」となったひとときでした。(HH)



港北区青少年指導員協議会広報紙

港北青指

第 44 号
令和元年 11 月 発行
発行者 港北区青少年指導員協議会
編集 広報委員会
事務局 港北区大豆戸町26-1
港北区役所地域振興課内
TEL 045-540-2240
FAX 045-540-2245

港北青指 🔍 検索

青少年の健全育成を進める県民大会

令和元年7月6日(土)、茅ヶ崎市民文化会館にて令和元年度青少年の健全育成を進める県民大会が開催されました。

少子化、核家族化の進行、情報化社会の進展等、青少年を取り巻く社会環境が変化する中で、次代を担う青少年の健全育成のため、家庭・学校のみならず、地域で青少年を見守り、支えることを目的として社会全体で青少年をはぐくむ環境づくり～寄り添うことで生まれる「信頼」をはぐくむ～をテーマに実施されました。

オープニングは、県立鶴嶺高等学校の軽音楽部の軽快でポップな音楽で始まりました。

基調講演は「寄り添うことで生まれる「信頼」を育む」と題して、小澤いぶき氏から、学校や地域での居場所づくりの事例が紹介されました。地域で青少年に寄り添う市民支援者(コミュニティースワーカー)の育成にも力を入れており、大学生をはじめ、数多くのボランティアの協力を得て活動を進めているそうです。青少年に寄り添ううえで大切なのは、大人の価値観を押し付けないこと、とのこと。

パネルディスカッションは、小澤氏がコーディネーターとなり、高校生2名、和田氏、佐藤氏をパネリストとして進められました。青少年が思い悩んだ際に、大人はどのように接することができるか、どう接したら良いかを中心に話合われました。学校内でも、生徒がいつでも悩みを相談できる場所を設けるなどの対応をとっているが、知らない人には話しづらい、学校内では話が漏れないか心配、などの側面もあるとのこと。やはり相談する/される両者に信頼関係がないとうまくいかないようです。

私たち青少年指導員としても、さまざまな活動を展開していますが、子どもたちへ大人の価値観を押しつけていないでしょうか?子どもたちにちゃんと寄り添えているでしょうか?青少年たちから信頼される大人になれるよう、青少年の立場になって考えることを忘れないようにしたいと思います。(HM)

《大会プログラム》

オープニング	県立鶴嶺高等学校 軽音楽部
開会のことば 主催者あいさつ	かながわ青少年社会環境健全化推進会議会長 市丸 克己 神奈川県副知事 首藤 健治 茅ヶ崎市長 佐藤 光
基調講演	テーマ「寄り添うことで生まれる「信頼」を育む」 認定NPO法人PIECES代表理事、児童精神科医 小澤 いぶき
パネル ディスカッション	さまざまな課題を抱える子どもたちへ「信頼できる他者」ができること コーディネーター 小澤 いぶき パネリスト 県立鶴嶺高等学校校長 佐藤 教道 コミュニティースワーカー 和田 麻友香 青少年パネリスト 県立茅ヶ崎北稜高等学校 高平 勇輝 県立茅ヶ崎北稜高等学校 小櫻 優子
閉会のことば	かながわ青少年社会環境健全化推進会議会長 市丸 克己



パネルディスカッションの様子

全市一斉パトロール活動・社会環境実態調査

令和元年7月下旬、地区ごとに全市一斉パトロール活動を行いました。今年は天候のせいか青少年の外出が少なく、目立った問題行動は見受けられませんでした。また、毎年神奈川県からの依頼のもとに行っている、社会環境実態調査も行いました。インターネットカフェ・まんが喫茶(18歳未満の深夜立入制限の掲示等について)、古書店・ゲームソフト取扱店等(有害図書類の区分陳列等)の立ち入り調査を行っています。昨年度からの改善がみられる店舗がある一方、今年度初めて調査に入った店舗の中には区分陳列を行っていない店舗もあり、今後の課題もありました。(青指協事務局)

編集後記

今回の自然体験教室は、天候の心配はありましたが、木に触れ、土に触れ、正に自然体験できたイベントになったようですね。植樹した木がどのように育つか楽しみですね。(HM)

令和元年度港北区青少年指導員協議会研修会

令和元年5月21日(火)午後7時より、港北区役所4階会議室において「令和元年度港北区青少年指導員協議会研修会」が開催されました。

今年の研修会はこれまでと違う試みとして、講義とグループディスカッションの二部制で行いました。第一部の講義では、「青少年と青少年施策」をテーマに、こども青少年局青少年部部長の宮谷敦子氏より、横浜市が戦後、どのように青少年と関わってきたのかを年代別にお話しいただきました。子どもを巡る環境が時代とともにどう変化してきたのかを理解するとともに、青少年指導員活動の意義についても再認識できました。

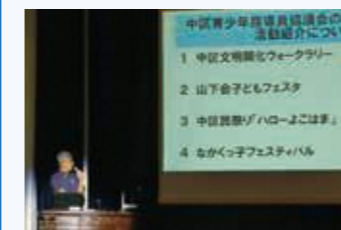


第二部のグループディスカッションでは、研修に参加した110名の青少年指導員が6人ずつのグループにわかれ、それぞれ自分の地区で力を入れている活動や、やりがいのある活動等について話しました。例えば、私が参加したグループでは、凧揚げ大会、キャンプ、中学生ボーリング、肝試しなど、地区ごとの特色を生かした活動の話聞くことができました。各地区での普段知ること機会の少ない独自の活動や工夫、問題点等についての意見交換ができ、有意義な時間を過ごせました。

研修会は大いに盛り上がり、あっという間に時間が過ぎました。(CE)

横浜市青少年指導員研修会

令和元年9月8日(日)、「令和元年度横浜市青少年指導員研修会」が横浜市開港記念会館に於いて開催されました。オープニングイベントはダブルダッチチーム「ZERO」所属の樋口かおり氏指導のもと、横浜市立北方小学校6年生代表が、見事な縄跳びのパフォーマンスを披露してくれました。素晴らしいチームワークと一所懸命に行う姿に参加者はすっかり魅了されました。



そして基調講演は日本語支援拠点施設『ひまわり』校長出川進氏による「日本語指導が必要な児童生徒への支援について～プレクラス『ひまわり』より～」が行われました。横浜市は約10万人(子どもは1万人)の外国人が居住しています。『ひまわり』に通う子どもの家庭の多くは日本への永住を希望しています。しかしながら、子どもたちは公立の小中学校に通っていても言葉や習慣が分からないため周囲の人に気持ちが伝わらない、親も学校の配布物の内容が分からない等の問題を抱えています。『ひまわり』では、そのような子どもたちに日本語や文化、習慣を身につけてもらうための教育を行っています。出川先生が参加者に、周りの人たち全てが良き「お手本」となり、子どもたちに寄り添い、将来日本と世界の懸け橋になれるようにしてあげて欲しい、と呼び掛けていたのがとても印象的でした。



基調講演の出川進氏

次の開催地区は、港南区です。(MW)



第11回自然体験教室「湘南国際村・めぐりの森」

令和元年9月21日(土曜日)

第11回自然体験教室を横須賀市と三浦郡葉山町の境に位置する「湘南国際村・めぐりの森」で開催しました。港北公会堂前に区内の小学生65名が集合、大型バス2台に分乗し現地に向かって出発!

当日は台風の影響による雨が心配されましたが、子どもたちの元気に吹き飛ばされたのか、現地に着いた時は曇り空ながら涼しい風の吹く、まさに野外活動にベストな状況。

晴れていれば相模湾が一望できる高台に位置する総研大(国立学校法人総合研究大学院大学)の講義室で子どもたちは「大学生気分」で延べ90分にわたる講義を受けた(よく頑張った!)後、今回の最大の目的「植樹・育樹」を実施。

初めての経験の子がほとんどの中、みんな指導員の言うことをよく聞き丁寧に植樹を実施。

いつの日かまたこの場所を訪れた時、どのように木々が成長しているかを楽しみにしながら帰途につきました。



全員集合! お疲れ様!

「森のひみつ
～知は力、無知は罪悪～」

「湘南国際村・めぐりの森」を中心に森林育成・潜在的な植生景観の復元等を行っている一般社団法人Silva(シルワ:ラテン語で「森」を意味します)代表川下都志子さんを講師に「森のひみつ～知は力、無知は罪悪～」をテーマにお話をいただきました。

講義の内容は「大人向け」に作られていたようですが川下さんに子どもたちにわかりやすい工夫して話をしてもらいました。前半40分、後半は講義と質疑応答で約50分と子どもたちは大丈夫かな?と少し心配でしたが熱心に聞き入っている様子に一安心。

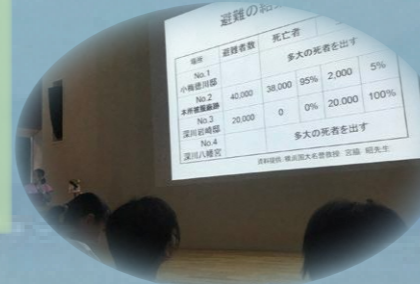
昔の人々は「森(木々)と共生することの大切さ」を知っていたこと、災害時にいかに森林がその災害から人を守ってきたか(鎮守の森の例)の説明や、近年の治水事業や「邪魔だから」と安易に森林伐採を行う行為が「本来あるべき水の循環」を断ち切り、結果的に次の災害の「火種」になっていること、また森林にすむすべての生き物の個々の役割がいかに環境の維持に役立っているかを説明いただき非常に有意義な講義でした。



講義の前に「Silva」スタッフ紹介



一生懸命メモ取ってます



森の役割がよく分かりました

中村教授のお話です。



国際村 位置図



② どれを植えようかな?



① 植え方の説明しま～す



③ 「根の長さの1.5倍」掘ってます!



藁が飛ばないようにロープを張って。植樹出来上がり!



④ 元気に育つよう藁を敷いて



⑤ 木札に名前と願いを込めて

(野外活動 植樹・育樹)

各地区ごとにシルワのボランティア・スタッフが付き「植樹・育樹」を行いました。まず川下さんから植樹時の注意事項(穴の深さや木々の間隔、隣同士に同じ種類の木を植えないこと等)を聞き植樹スタート。みんな思い思いの木をスタッフに質問しながら植えていました。植樹後は自分のお気に入りの木に自分の名前・願いを込めた「木札」をぶら下げ、藁をきれいに敷き詰め植樹完了。植樹終了後シルワの理事をされている東京農大中村幸人名誉教授から植樹を行った三浦半島周辺の植物についてお話をいただきました。季節の木々にいつ頃どのような花が咲くか、今植えた幼木たちは何年後どのような姿になるか等の話に興味津々の様子でした。

第27回

小机城址まつり

令和元年5月19日(日)、晴天にめぐまれ、小机城城代・笠原越前守信為をはじめとする勇壮な武者行列のパレードが本丸の舞台での武者出陣式、小机城址太鼓の演奏などが行われました。中世小机の歴史を伝える、横浜市内でも数少ない城址「小机城」にちなんだ武者行列は、市内でも唯一とも言われる基調な歴史が感じられました。



出陣式

「武者行列」に参加した青少年指導員

重臣、旗持、ほら貝、ドラ、太鼓、槍隊、鉄砲隊



ほら貝を先頭にいざ出発!!



旗持と槍隊



勇壮な鉄砲隊